

受験番号

令和7年3月9日  
 一般社団法人 日本和裁士会  
 (所要時間60分)

	(1)の得点	(2)の得点	合 計	判 定
成 績				合 否

(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切は実線・折り山等は点線で記入) (配点各問6点)

① 並幅物12m31cm(3丈2尺5寸)の反物で、本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにしたい。裁断図および各部の寸法と名称を記入しなさい。

身丈 背より出来上がり165cm(4尺3寸5分)・袖丈出来上がり53cm(1尺4寸)

繰越2cm(5分)・裾下(衿下)出来上がり81.5cm(2尺1寸5分)・他は標準寸法とする。

(注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。

後	前	後	前	後身頃	上前身頃	後身頃	下前身頃	衿 157.5cm	下 前 裾	衿 157.5cm	上 前 裾
袖		袖						共衿		地衿	
57cm	57cm	57cm	57cm	172cm 455	172cm 455	172cm 455	172cm 455	95cm 250	上前	220cm 580	上前

② 並幅物12m(3丈1尺7寸)の反物で、本裁女物袷長襦袢を作りたい。その裁断図を記入しなさい。

袖	袖	裾返し	身頃	裾返し	裾返し	身頃	裾返し	立衿	衿 先
								立衿	衿 先

③ 並幅物3.2m(8尺5寸)の裏地で、女物長着の裾廻しを裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。

後裾	後裾	前裾	前裾	裏衿	衿 先
		袖口	袖口	裏衿	衿 先

④ 並幅物11.8m(3丈1尺2寸)の反物で、留袖用比翼を作りたい。その裁断図を記入しなさい。  
 ただし、袖は口・振とし、衿裏共布とする。

裾	裾	裾	裾	衿	地衿	共衿	振	振
				衿	裏衿	袖口	袖口	口

⑤ 並幅物11.4m(3丈)の反物で、男物長着の通し裏を裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。

裏袖	裏袖	裏身頃	裏身頃	裏衿	裏 衿
				裏衿	裏 衿

受験番号

(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を各問の所定の位置につけなさい。

(配点各問2点)

答

- 1・四君子模様とは松・竹・梅・蘭の模様のことである。
- 2・交織とは経糸と緯糸が異なった糸で織られた織物である。
- 3・大島紬の主な生産地は沖縄県である。
- 4・1デニールとは9000mで1gの重みのある糸のことである。
- 5・レーヨンと麻は水にぬれると強くなる。
- 6・足田や鹿の子の柄は両方とも絞り染めである。
- 7・ミシン針は表示数が小さくなるほど細くなるが、針丈は変わらない。和針の表示数は前の数が小さいほど太く、後ろの数が大きいほど針丈が長くなる。
- 8・色留袖の紋は必ず五ッ紋にしなければならない。
- 9・茶屋辻模様は全体が茶色系統の一色染めである。
- 10・柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃及び胸にポイントを置き、羽織は後身頃にポイントを置く。
- 11・鳩胸の人は、胸幅を広くするために裾下がりをもくするとよい。
- 12・太った人の長着の衿肩明きは、多くするとよいが、繰り越しは無い方がよい。
- 13・喪服の長襦袢は一般的に白色の生地を用いる。
- 14・本裁ち男女の長襦袢の着丈は、身長80%~83%くらいに決めればよい。
- 15・共衿(掛衿)を2本取る場合、仕立寸法に用布を見積もり50cm残れば取れる。
- 16・女物長着の袖付の付け違いは、前袖付けを少なくする。
- 17・①着尺一反 ②袷振袖用長襦袢一反 ③大島紬一足のうち、②が一番短い反物である。
- 18・三ッ紋の位置は背紋と、抱紋である。
- 19・袋帯の帯丈は、ふつう4.2mくらいである。
- 20・女物長着の袖の柄は右も左も後ろにポイントを置くとよい。
- 21・単衣羽織の鉄砲付をする場合、前後当を付けてから、衿を付ける。
- 22・一反の反物から羽織を二枚作る時、前身頃から衿を取る場合は、背縫いが深くなるので、必ず、衿を測ってから裁つべきである。
- 23・女物羽織の袖丈は、長着の上に着るので、袖丈は長くする。
- 24・道行コートはフォーマルなもので、寒いときはもちろん、どんな時でも脱ぐ必要はない。
- 25・袷道行コートの要尺は並幅で10mあればできる。
- 26・一般的な道行コートの縦衿下がりとは、胸明寸法は同じである。
- 27・訪問着を着用するときは必ず羽織を着る。
- 28・絞小紋のきものは、紋を付ければ略礼装のきものになる。
- 29・女子の小紋の着物に袴を付けると礼装になる。
- 30・草木染めは花・草・樹木などの模様を染め出したものである。
- 31・ポリエステル・アクリル・レーヨンはいずれも合成繊維である。
- 32・色の三原色とは赤・緑・青紫である。
- 33・火傷をしてしまった場合、一般的に局部を水で冷やすのがふつうである。
- 34・女物長着の裾廻しが短尺物の場合、前裾布から袖口布を取る場合がある。
- 35・日本における家庭用電源は、100Vを使用している。10A(アンペア)コンセントで、次の3つずつの電熱器を使用することができる。
- ①150W+600W+800W ②300W×3 ③150W×2+500W